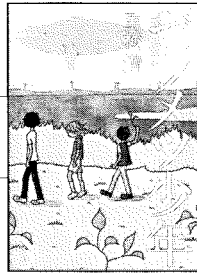


小学生のころから執拗ないじめにあって不登校になった中2のタケシには、家庭にすら居場所がなかった。抜群の能力を持つ小5の少女ジュンも深刻な事情を背負っており、「ニンゲンが嫌い」と言い切る。幼いころ母親を亡くした小5のリユウは、教師である父親に心配をかけたまゝいと歯を食いしばっていじめに耐えている。本書の主人公は、学校を長期欠席する子どもたちの合宿で出会った彼ら3人だ。この物語は、子どもたちから小説家のセンセイに届いた「センセイ、僕たちを助けてください」「物語の中に隠れさせてほしい」という手紙から始まる。



ゼツメツ少年

重松清 著  
810円 新潮文庫  
☎03-3266-5162

「ゼツメツの危機から抜け出すには物語の力が必要です」と訴える彼らは、物語の中で、若い夫婦や雲の写真を撮り続ける女性、我が子を守るためにナイフを忍ばせていたオジサンやレモンの時限爆弾を持つ少女と出会う。彼らとの交流を通して、3人はたくさんの貴重な学びをする。親のこと、いじめっ子のこと……自己理解、他者理解を深めて成長していく。しかし、それが「居場所のない生き物はゼツメツするしかない」という彼らを、ゼツメツの危機から救うことになったのだから。

「現実の世界では決して取り戻すことのできない後悔」を、センセイという書き手に託して語っている。私たちの目前にも、この物語の登場人物のような思いや背景を抱えて生きている子どもがいるかもしれない。物語に込められた真実の叫びを全身で受け止めてつづ読み通したい。

この文庫は雑誌連載、単行本版を経て刊行された。毎日出版文化賞受賞作品である。  
(元川崎市立中学校長・青木幸大)



英語教育改革により、2020年度から、小学校の教科としての英語教育が始まる。本書は学校の授業で習う英語と実際に使用されている英語とにギャップがあることから企画された。英語のネイティブ・スピーカーである筆者は「日本人英語のなかには、『正しいけれど、もはや使われていない表現』や『意味は伝わるけれど、どこか不自然な表現』があふれている。それを指摘している。そして、実際に「学校で教わる不自然な英語表現」のどの部分か不自然であるかを解き明かし、それに対して、ネイティブ・スピーカーが日常的に使用している自然な英語表現が掲載されている。たとえば、「お元気ですか?」「元気です、ありがとう。あなたは?」といった最初に習う挨拶の表現において、教科書ではA: Hello. How are you? B: Fine, thank you.

先生、その英語は使いません!  
学校で教わる不自然な英語100



サラ・クラフト 著  
リン・クラフト 編訳  
哲彦  
1512円 ディー・エイチ・シー  
☎0120-575-391

グローバリ化時代において、英語は国際言語のツールとして必要不可欠であり、日本の英語教育も英語コミュニケーション能力を育成することが目的である。教科書一辺倒ではなく実際に「使える英語」を的確に教えてくれた1冊である。  
(愛知教育大学教授・高橋美由紀)

「意味になることを対話形式で示している。」  
また、筆者と親友の日本人のマキが街を歩いて見かける看板や標識などにも「意味の通らないうおかしな英語」があふれているのを指摘するコーナーもある。例を挙げると「Grand Opening」の間違いは「Grand Opening (大開店)」とし、「Open」を名詞で使うと「空き地」と掲載されている。しかし、このような挨拶を友人などの親しい関係ではけつしてありえない。仲のいい友人同士の手やりとりであったら、A: Hi Joe. How's it going? B: Hey Matt. What's up?といった表現が用いられる。また、筆者と親友の日本人のマキが街を歩いて見かける看板や標識などにも「意味の通らないうおかしな英語」があふれているのを指摘するコーナーもある。例を挙げると「Grand Opening」の間違いは「Grand Opening (大開店)」とし、「Open」を名詞で使うと「空き地」と掲載されている。しかし、こ